



14年間にわたって理事長を務めた木村隆昭氏(左)と、新たに就任した渡部克明理事長(右)

木村隆昭氏の勇退に伴い、 YMFS第3代理事長に 渡部克明が就任。

14年間にわたり当財団の理事長を務めた木村隆昭氏の勇退に伴い、2024年6月に渡部克明(ヤマハ発動機 代表取締役会長／就任時)が理事長に就任。着任後は自然体験絵画コンテストの最終審査会を皮切りに、YMFSスポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングやYMFSセーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖など、事業活動の現場に精力的に足を運んで活動への理解を深めるとともに、各事業に関わる人々を激励した。

初代理事長の長谷川至氏からバトンを受け、2010年に第2代理事長に就任した木村氏は、財団の基盤整備や事業活動の質の向上に尽力。14年の任期の中では東日本大震災や新型コロナによるパンデミックが起こり、スポーツの存続やその力があらためて問われる未曾有の事態となった。そうした時、目標としていた大会の中止やトレーニング環境の確保に苦しむアスリートたちに、「どんな環境に置かれても諦めず、チャレンジを続ける皆さんの姿勢に敬意を示したい。努力は必ず報われると信じてこれからも取り組んでほしい」と激励し、「こうした時こそ、スポーツの力が発揮され、さらに価値を高めるのではないか。いまでも不自由な生活を送る皆さんに、スポーツの力で元気や勇気、明るい明日を届けよう」とメッセージを贈った。

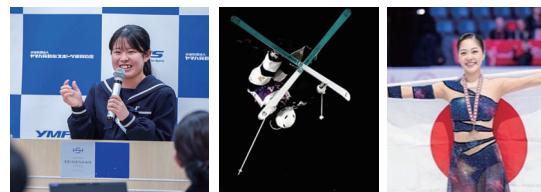
50年ぶりに改正されたスポーツ振興法、またスポーツ基本法の施行やスポーツ基本政策の策定、さらにはスポーツ庁の設置など、社会の枠組みの中であらためてスポーツ文化の価値がかたちづくられた飛躍の十余年。2017年には当財団も設立10周年の節目を迎え、木村氏には、次の10年につないでいく中興のリーダーとして組織を牽引していただいた。

2024/2025 令和6年度

パリオリンピックが開かれ、やり投げの北口榛花選手が女子トラック・フィールド種目で日本人初の金メダルを獲得、またパラリンピックでも車いすテニスの小田凱人選手が最年少で金メダル獲得するなど日本人選手が活躍した。一方、MLBでは大谷翔平選手が史上初となる50本塁打・50盗塁を達成し、日米のファンを沸かせた。

チャレンジ支援事業

スポーツを通じて世界に羽ばたく逞しい人材の育成を目的に、新年度のチャレンジャーに30名を選出。成長プロセスを重視するサポートプログラムによって、それぞれの夢・目標の実現を支援した。



■ 2024年度(18期生) 助成概要

	申請数	採択件数	助成金額
体験助成	90件	15件	1,440万円
研究助成	58件	15件	1,434万円
計	148件	30件	2,874万円

■ 第17回ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞 該当なし

スポーツ体験促進事業

■ ジュニアヨットスクール葉山

新年度は9名のスクール生でスタート。通常講習に加え、夏場にはライフセーバーの指導による水辺の安全講習会を実施した

■ セーリング・チャレンジカップIN浜名湖 第33回大会は、OP初級、OP上級、ILCA4級、ILCA6級の4クラスを開催。全国から14団体・52名(艇)が参加した。



■ 全国児童 自然体験絵画コンテスト

全国から7,132点の作品応募があり、入賞作品24点と入選作品294点を決定した。入賞作品はジャパンインターナショナルポートショーや、国立オリンピック記念青少年総合センターで展示・公開した。

■ スポーツ教材の提供

339件の応募の中から、厳正な抽選により、当選した120の幼稚園、学校、団体にポッチャボールセット、タグラグビーセットを提供しました。

■ ユニバーサルスポーツ体験会

ユニバーサルスポーツ体験会「チャレンジ! ユニ★スポ」を静岡県内の小中学校10校で開催。児童・生徒、教員合わせて744人が参加した。



■ 調査研究

同志社大学東京サテライト・キャンパスで、記者懇談会「東京2020パラリンピック後の障害者スポーツ環境の変化」を開催。報道関係者13名が参加した。